

平成28年度 交流及び共同学習について

1 本校の交流及び共同学習のねらい

地域社会の人々、居住地域や近隣の学校の児童生徒と活動したりする中で、生活経験を広げ、社会性や豊かな人間性を育む。

2 交流及び共同学習の内容

(1) 学校・学部ごとの行事や学校・学部全体で取り組む直接的・間接的な交流

文化祭における交流など

(2) 学校間交流

学級・学年・学部などで実施する小・中・高等学校との交流

(3) 居住地域校交流

当該児童生徒の住所が存する通学区域内の学校との交流（年に1・2回）

(4) 地域の人や様々な人との交流

幼児や高齢者をはじめ、様々な立場（職業）の人との交流、作品やポスターの展示（間接的な交流、奉仕活動、生徒会の活動など

3 教育課程の位置付け

○ 事例ごとに、ねらい・内容等について、相手校と十分に協議して計画を立て、年間指導内容に明確に位置付けて実施する。

○ ねらい・内容などから、教育課程の位置付けを明確にする。

4 本校における交流及び共同学習の考え方

学年・学部	具体的な活動	考え方等
小学部	○ 文化祭などにおける交流及び共同学習や、居住地域校との交流及び共同学習	学年の目標に沿って立案、実施する。 居住地域校での個人交流は、年に1・2回程度、実施する。
中学部	○ 文化祭などを利用した地域社会の人々や、生徒の出身校、居住地域校との交流及び共同学習	文化祭などを利用し、学年の目標に沿って、近隣校、生徒の出身校、居住地域校との交流及び共同学習を、立案、実施する。
高等部	○ 文化祭などを利用した、地域社会の人々や来校者、他の高校との交流及び共同学習	進路を考えた取組や、学年の目標を考慮し、文化祭等を利用して、地域社会の人々や来校者、他の高校との交流及び共同学習を立案、実施する。